

『サイトワールド 2011』報告書

はじめに

東日本大震災で被害を受けられた方々に、謹んでお見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復興を、多くの皆さまとともに、心よりお祈りいたしております。

3.11 の未曾有の災害に際し、2 月より準備を開始したサイトワールド実行委員会では、当初の企画案を留保し、視覚障害者は大震災にどのように遭遇していたのかを考えるシンポジウムを行うことにいたしました。しかし、被災され、避難されている方々から、発表していただく方をどのように探すか、また、シンポジウムという場で、話していただけるだろうかという心配もあり、企画内容、発表していただく方が確定したのは、会期前1ヶ月もありませんでした。

シンポジウムでは、情報取得にいかにつまづいたか、情報伝達の難しさ、そして、必要な人に情報機器そのものが届いていないこと、それにもまして、日常生活用具として保障された基本的な機器の存在を知らない視覚障害者が、多くおられることが衝撃的にも明らかになりました。

『サイトワールド』は、視覚障害者の情報取得を支援する機器・製品、サービスを紹介するイベントであり、優れた最先端技術の駆使による進化と、そして、誰でもが使える、利用できることを目指すユニバーサルデザイン(UD)の進化・普及を目指すイベントでもあります。シンポジウムが明らかにした状況は、主催者として、サイトワールドの開催意義を改めて噛みしめるものとなりました。

幸いにも、手に触って確認、納得し、満足できることを目指す『サイトワールド』は、世界でも例を見ない「視覚障害者向け総合イベント」として、今回も、皆さまのご協力とご支援により盛況裏に開催できましたことをご報告いたします。

1. 開催概要

名 称	サイトワールド 2011
テ ー マ	ふれてみよう！ 日常サポートから最先端テクノロジーまで
日 時	平成 23 年 11 月 1 日(火)、2 日(水)、3 日(木・文化の日)、 午前 10 時～午後 5 時(最終日午後 4 時)
会 場	すみだ産業会館 サンライズホール 東京都墨田区江東橋 3-9-10 墨田区丸井共同開発ビル 8・9 階 (JR錦糸町駅南口前)
入場料	無料
主 催	社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 サイトワールド実行委員会
共 催	社会福祉法人 日本盲人会連合、社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会、全国盲学校長会、 社会福祉法人 日本点字図書館、社会福祉法人 日本ライトハウス、社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
後 援	内閣府、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、東京都、墨田区、埼玉県、日本経済新聞社、 日刊工業新聞社、毎日新聞社東京社会事業団、朝日新聞厚生文化事業団、読売光と愛の事業団、 日本テレビ系列愛の小鳩事業団、NHK厚生文化事業団、テクノイド協会、日本ロービジョン学会、 日本障害者リハビリテーション協会、ライフサポート学会、鉄道弘済会、日本電気制御機器工業会、 中小企業家同友会全国協議会 (順不同)

ボランティア 墨田区社会福祉協議会、墨田区ボランティアサークル連絡会、点訳きつつき、霊友会法友文庫点字図書館、都立橋高等学校、全国音訳ボランティアネットワーク、および 有志の皆さま

2. 出展団体 (8階展示会場にて展示 36法人 50音順)

(株)アイプラスプラス(東京)、(株)アイフレンズ(大阪)、(株)アメディア(東京)、池野通建(株)(東京)、(株)インサイト(宮城)、(有)エクストラ(静岡)、NHK放送技術研究所(東京)、(株)NTTドコモ(東京)、(社福)桜雲会(東京)、オリンパスイメージング(株)(東京)、KGS(株)(埼玉)、(株)廣濟堂 スピーチオ販売(東京)、NPO 法人ことばの道案内(東京)、(株)サンエ芸(京都)、(株)ジェイ・ティー・アール(東京)、特定非営利活動法人 NGO シェイクハンド(東京)、(社福)視覚障害者支援総合センター(東京)、シナノケンシ(株)(長野)、篠原電機(株)(大阪)、(株)タイムズコーポレーション(兵庫)、(株)タナベ(京都)、テクノツール(株)(東京)、東芝ホームアプライアンス(株)(東京)、新潟大学 工学部(新潟)、(株)西澤電機計器製作所(長野)、日本盲人社会福祉施設協議会盲人用具部会(東京)、(社福)日本点字図書館(東京)、(株)日本テレソフト(東京)、(社福)日本盲人会連合(東京)、パナソニック(株)(大阪)、ヘルプミーの小旗の会(東京)、三菱電機(株)(東京)、三菱電機ホーム機器(株)(埼玉)、ラビット(東京)、Freedom Scientific BLV(アメリカ)、ViewPlus Technology(アメリカ)

3. 特別企画 シンポジウム『東日本大震災・原発と視覚障害者』

11月1日、2日、3日、各午後1時より、

宮城、岩手、福島に被災した視覚障害者と、支援にあたった視覚障害者支援団体の方々に、日替りで発表をお願いし、被災者と支援者のそれぞれの立場の経験から、今後の備えを学び、考えるものとして開催しました。

なお、原発事故の影響について語るができる視覚障害者を招くことが困難であったため、標題とは一部異なる内容とならざるを得ず、連日開催に先立ち、来場の皆さんに主催者より釈明いたしました。

司会は、1日は、高橋 実・サイトワールド実行委員会事務局長(視覚障害者支援総合センター理事長)が、2日は、田中徹二・サイトワールド副実行委員長(日本点字図書館理事長)が、3日目は樽松武男・サイトワールド実行委員長(KGS株式会社代表取締役社長)がそれぞれ務めました。

日本盲人福祉委員会(日盲委)の東日本大震災視覚障害者支援対策本部・事務局長の加藤俊和氏には、同本部の活動と状況についてのお話を、東京消防庁防災部副参事 江原信之氏には、東京消防庁の活動及び調査から得た教訓についてのお話を、連日していただきました。

被災者の立場から、1日目は、宮城県在住の勝倉忠明氏、2日目は、岩手県在住の寄松 忠氏、3日目は福島県在住の坂野智弘氏に、大震災に遭遇して困ったこととこれまでの生活について、それぞれの体験から得られた貴重なお話を伺いました。

支援活動にあたられた方々として、1日目は、日本盲導犬協会事業本部ゼネラルマネージャー 中村 透氏、2日目は、日本盲導犬協会仙台訓練センターリハビリテーション事業部マネージャー 原田敦史氏、3日目は、京都ライトハウス鳥居寮リハビリテーション支援員 神屋郁子氏より、被災者の支援で感じたことと改善点などを話していただきました。

震災直後は、倒れた家具やガラスの破片などで、視覚障害者は家の中でさえも動けない状況であり、また、白杖歩行が得意な人でも瓦礫の溢れる道路を歩くことは至難なことで、震災時は、歩行という基本的な部分が問題となること、避難所での生活は、特に張り紙が読めず、情報がつかみにくいことや、トイレの使用が大変だったこと、仮設住宅では環境が大きく変わって不便になったこと、見る情報ばかりが多く、苦勞されていることなどが報告されました。

要支援登録をしても、支援者が災害の中で必ず助けられる状況にあるとは限らないことが、今回の震災では明らかになったことから、支援者の3氏の発言に共通していたのが、「自らが視覚障害者として存在している」ことを地域に知らせておく必要があるということでした。

加藤俊和氏は、連日次のことを話されました。東日本大震災視覚障害者支援対策本部が実施した視覚障害者への「日盲委の支援資料の送付」も、個人情報保護という壁にあたりましたが、関係者の奔走と工夫により、沿岸部の1・2級の視覚障害者すべてに対しての資料送付と支援が実現しています。その中で、タイムリーに情報を提供する手段と状況把握の課題が明らかになり、これからの障害者支援には、障害者団体の会員や施設利用者以外の障害者も含めて、行政・関連機関が抜本的な対策に努めるべきであろうとされました。

支援資料送付に対する回答で、様々な実態が明らかになりましたが、それは、中高年で視覚障害になり家でひっそり暮らす視覚障害者の多さであり、震災後3ヶ月以上を経過しても、ラジオを希望する人が7割にのぼっていることでした。一般へのラジオ供給は4月で終了しており、どこにも所属しない視覚障害者には、情報がほとんど行き渡っておらず、音声時計をはじめとする音声機器・用具の存在すら知らないという人が半数近くおり、日常生活用具制度について知らない人も半数以上という、衝撃的な実態が判明したのです。

東京消防庁 江原信之氏は、阪神淡路大震災の教訓から行政の広域支援体制が整備されてきたこと、災害時の対処などお話しいただきました。会場で東京消防庁の東日本大震災発生時からの記録ビデオの上映もあり、お話とともに震災時の対応について、来場の皆さんは、他人事ではなく、自分の身にいつ起こってもおかしくないことの思いを強くされたようです。

4. ビデオ上映 東日本大震災 東京消防庁活動記録

11月1日、2日、3日、各午前10時より、および、シンポジウム終了後、2台の受像機で上映。

東京消防庁の東日本大震災発災時から4月26日までの活動映像を、同庁から提供いただき、日本点字図書館にて視覚障害者用に副音声の編集を加え、テレビ受像機も出展企業のパナソニック株式会社、三菱電機株式会社からそれぞれご提供いただき、9階会議室1・2会場にて上映しました。

約15分の映像には、地震発生時のテレビ映像と、大手町、秋葉原、お台場、浦安の様子に続き、14時48分に東京消防庁に震災非常配備態勢が発令され、江原信之氏のお話にあつたように、阪神淡路大震災を契機に制度が整えられてきた緊急消防援助隊の東京都隊として、16時15分の出場命令を受け、夜を徹して気仙沼に向った消防隊の瓦礫の中での消火活動、救助活動の様子とともに、津波の押し寄せる様子や、悲惨な被災地の状況が映し出されていました。

映像から、自然の猛威の前に、人の無力さを感じざるを得ませんが、災害現場で、昼夜を分かたず、捜索・救助・消火活動に邁進された東京消防庁の皆さまをはじめとして、全国の消防本部、自衛隊、警察、行政の災害地へ赴かれた皆さんの労苦を思い起こさせる映像でもありました。被災され、犠牲になられた方々の心情を思いますと言葉もありませんが、東京消防庁の皆さんの献身的な活動の映像には感謝の思いを強くされた方も多かったようです。

5. 「サピエ図書館とは」 概要説明 全国視覚障害者情報提供施設協会・日本点字図書館

11月1日 午前11時より

「サピエ」は、視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して点字、デージーデータをはじめ、暮らしに密着した地域・生活情報などさまざまな情報を提供するネットワークで、日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営を行っています。

「サピエ」事務局長 加藤俊和氏が概要説明を行いました。サピエ図書館では、音声などでもわかりやすいホームページから、点字データ12万タイトル以上、音声デージーデータ2万タイトル以上がパソコンや携帯電話によってダウンロードできます。しかも、各館が所蔵する50万タイトル以上の膨大な資料が、オンラインリクエストによって点字図書館等を通して利用できます。また、必要なデータの集積を順次進めている「地域・生活情報」の利用やお役立ちリンク集などによって、さまざまな情報が得られるほか、図書の製作に関する支援も行っています。

6. 「サピエ図書館とは」 関係出展者による利用説明会

11月1日 午後1時より

田中徹二・日本点字図書館理事長(サイトワールド副実行委員長)の司会で、8階展示会場に出展され、「サピエ図書館」に関連する機器やサービスを扱っている企業の担当者から利用説明を行いました。

・有限会社 エクストラ 深見哲史氏

概要:ブレイルセンスシリーズ・VRストリーム・クラスメイトを使用したサピエ図書館の活用方法。

・KGS株式会社 籠宮 純氏

概要:ブレイルメモとBMビューアー(ソフト)でサピエ図書館にアクセスしてコンテンツの楽しむ方法を紹介。

・シナノケンシ株式会社 山岸秀和氏

概要:サピエDAISYオンラインに対応したプレクストークリンクポケットの製品紹介・説明と、デモ体験の実施。

・株式会社 タイムズコーポレーション 山平健人氏

概要:ブックセンスによるサピエ図書館の利用。ブックセンスではデジターの再生だけでなく、点字の読み上げも可能。
サピエと図書館の多くのデータを楽しむことができる。

・株式会社 ラビット 荒川明宏氏

概要:マイブックを利用したサピエの楽しみ方を紹介。DAISY図書その他、点字図書の読み上げも説明。

視覚障害者支援総合センター発行の雑誌「視覚障害」10月号では、最新機器・サービスを使って「サピエ図書館」を楽しむ!と題し、上記各社の情報を特集しました。サピエ図書館を楽しむことをテーマとしたこともあって、「視覚障害」読者にとっては事前に様子を把握したうえで、会場で体験することになり、特集記事は好評でした。

7. ライフサポート学会、アクセシビリティ・フォーラム、セミナー等の開催

(1) ライフサポート学会 研究発表会:11月2日午前10時30分より

「視聴覚障害者バリアフリー技術研究会」委員長 坂尻正次(筑波技術大学 准教授)

・タッチスクリーン端末における音声読み上げの現状

—iPadを視覚障害者が音声読み上げでどこまで使用できるか—

松坂治男、酒谷千春、坂尻正次、小野 東(筑波技術大学保健科学部)

・タッチスクリーン端末におけるキーボード入力の現状

—iPadを視覚障害者がどこまで入力できるか—

坂尻正次、酒谷千春、松坂治男、小野 東(筑波技術大学保健科学部)

・視覚障害者の空間知覚を訓練・支援するためのシステム開発状況

三浦貴大(独立行政法人 産業技術総合研究所)、藪謙一郎(東京大学 先端科学技術研究センター)

鈴木淳也(富山大学大学院 生命融合科学教育部)、関 喜一(独立行政法人 産業技術総合研究所)

伊福部達(東京大学 高齢社会総合研究機構)

・各演題の研究内容のデモンストレーション

(研究発表の内容を体験し、研究者との対話を行う時間が用意され、双方向の交流が行われました。)

企画・司会 富田英雄(東京電機大学理工学部教授)、坂尻正次(筑波技術大学保健科学部准教授)

(2) サイトワールド・アクセシビリティ・フォーラム:11月2日午後1時より

コーディネーター: 樽松武男(KGS株式会社 代表取締役社長)

・合成音声を用いたDAISY数学コンテンツ制作システムの開発

澤村潤一郎(社会福祉法人 日本点字図書館 図書製作部録音製作課)

・点字学習についての一考察

鈴木義則(KGS株式会社 VIP部 開発・技術課)

・ISOにおける触覚を利用したアクセシビリティ規格の開発

佐川 賢(日本女子大学)

(3) セミナー、体験会、企画展、

- ① (社福)桜雲会・「ヘレンケラーホン・IPPITSUの体験会」: 11月1日午前10時、3日午前10時、
- ② (株)日本テレソフト・「音声コードが読め、紙幣を認識・スマートフォン活用ソフトの紹介と最新拡大読書器の発表」: 11月1日午後1時
- ③ KGS(株)・「KGSセミナー2011—KGSの新製品、新技術の紹介」: 11月2日午前10時
- ④ シナノケンシ(株)・「新製品 プレクストークリンクポケット体験会」: 11月2日午後1時、3日午前10時
- ⑤ (社福)桜雲会・企画展「江戸時代、二人の盲偉人の心—塙保己一と杉山和一」講師 長尾榮一(医学博士)、花井泰子(塙保己一研究家)、田部裕子(江島杉山神社宮司): 11月3日午前10時
- ⑥ 静岡県立大学 国際関係学部 石川研究室・セミナー「人はなぜ自分の位置を知りたいのか」講師 石川 准(静岡県立大学教授): 11月3日午後1時

8. ATM機器の展示 (郵便局のATMの実物の展示)

(株)ゆうちょ銀行、沖電気工業(株)のご協力で、郵便局のATMの実物を、8階会場KGSブースで展示しました。

昨年に続き、身近な郵便局に設置されているATMを、点字や音声での利用体験のため実機を展示しました。視覚障害者が、他の人の手を煩わすことなく、自己の資金を出し入れ管理することを体験するものです。ゆうちょ銀行の目の不自由なお客さまに対する取り組みが、ATMの視覚障害者の認知拡大と利用促進により、更なる充実に結びつくよう今回の体験が役立つものと期待しています。

9. 会場案内設備について

点字案内板: 日本で初の点字案内板を世に出した(株)サンエ芸より、サイトワールド 2011 展示会場のレイアウトを示す「点字案内板 BS-G 型」の提供を受け、入場口脇に設置しました。

点字ブロック: 点字ブロックのパイオニアの(財)安全交通試験研究センターの提供により、8階会場入口に「点字ブロック」を敷設しました。

音声案内システム: 池野通建(株)の提供により、「音声標識ガイドシステム」の音声案内装置を、会場エレベータ付近、会場入口、トイレ付近、展示コーナー等に設置、来場者の利便に供しました。

音声案内システム: レハ・ヴィジョン(株)の提供により、「ポッチ シリーズ」の音声情報案内装置を8階9階のトイレに設置し音声案内しました。

10. 開会式

11月1日午前9時45分より、会場エントランスにて、開会式を挙行了しました。主催者より、サイトワールド実行委員会委員長 樽松武男、日本盲人福祉委員会 理事長 笹川吉彦よりご挨拶をいたし、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室長 君島淳二様よりご祝辞をいただき、サイトワールド副実行委員長 田中徹二(日本点字図書館理事長)の4名の方によりテープカットをいたしました。

11. ボランティアによる誘導案内とボランティアの育成

墨田区のボランティアの皆さまを中心に、墨田区社会福祉協議会の皆さま、霊友会法友文庫点字図書館の皆さま、デイジー江戸川、音訳百舌の会、全国音訳ボランティアネットワーク、日本点字図書館の点訳ボランティア、横浜朗読

ボランティアなどからの皆さま延べ 200 名を超える方々に、6 年目の今年も支えていただきました。11 月 3 日には、都立橋高等学校の先生と生徒さん 37 名が来られ、案内と誘導のボランティアをいただきました。

ボランティアの皆さまには、今年も創意と工夫に富む準備をいただきました。特に墨田区の企業のユニークな製品や作品を集め、「すみだ さわるもの処」コーナーとして来場者に触っていただきました。皆さま大いに楽しまれたようです。

昨年に続いて、高校生の皆さんがボランティアとして、来場者の案内・誘導に若者らしい真摯さで貢献いただきましたが、ほとんどの皆さんが初めての体験でもありました。初々しいガイドに一瞬、戸惑われた来場者もおられたようですが、将来のボランティアを育てる気遣いで、ガイドするときはこうするといいてアドバイスされる光景もありました。

視覚障害者をガイドする場合、知識を学び、訓練も必要とされますが、困難にある人、不自由な人が、いたならば、そっと寄り添うことから、ボランティアは始まるのではないのでしょうか。寄り添ってくれた高校生に対するこの来場者のアドバイスは、心強いボランティアを育てることにつながるとともに、双方向の交流を旨とするサイトワールドのあり方そのものであったと申せましょう。高校生の皆さんにとっても、将来、社会人になられたときこの経験が、それぞれの人柄を豊かなものにする糧となることを祈るものです。

6 年継続して開催したサイトワールドは、毎年応援いただく方々が多くおられることから、案内誘導にもその経験がノウハウとして伝えられ、生かされています。サイトワールド文化として、皆さまともに、この文化を育ててまいりたく思います。

ボランティアの皆さまには、心より御礼申し上げます。

12. 首掛けカードとアンケートの実施、ヘルプカードとの兼用。

6 回目の開催となるサイトワールド 2011 では、行政関係(ピンク)、教育関係(水)、法人(団体・企業)(薄紫)、一般(黄緑)の 4 区分で、来場者の所属が分かるよう、色別のカードを用意し、首からかけていただきました。また、この首掛けカードを振ったり、高く掲げることより、ヘルプカードを兼ねることとしました。

カードの裏には、下記 8 項目の質問を印刷し、アンケートを行いました。

- ① 何回目のご来場ですか (1) 初めて (2) ()回目
- ② 印象に残ったイベント、テーマ、展示物などがございましたらご記入ください。(複数可)
- ③ 運営について、お気づきの点ありましたらご記入ください。
- ④ 性別 男性 女性
- ⑤ 年齢 ()代
- ⑥ どちらから来られましたか。(都道府県名を回答ください)
- ⑦ 所属 (1) 行政関係 (2) 教育関係 (3) 法人(団体・企業等) (4) 一般
- ⑧ 自筆 or 代筆 いずれかに○を

弱視用に拡大文字でのアンケート回答用紙などを含め、**1,595** 通の回答がありました。

13. 会場概況

今年は会期が、週中の平日、平日、休日という日程であったため、来場者の出足を心配する向きもありましたが、天気にも恵まれ、3 日間とも好調な人出となりました。特に 11 月 3 日は、貸切バスで来られたグループがいくつかあり、各ブースの方々も対応に大奮といたしました。

目的をもって来られる方が多くおられることが、年々顕著になってまいりました。これは、各出展者のブースで、じっくり説明を聞き、触って、納得しようということの現れと思います。来場者の各ブースでの滞留時間も長くなっています。事務局へ、あのブースはいつ行っても誰かがいる、いつ頃が空いているか、との問い合わせもあつたほどです。

自社の製品やサービスをアピールするだけでなく、来場者から意見を聞く、情報をいただくという姿勢に重点を置いた出展ブースは多くありました。特に東京消防庁のコーナーでは、防災がテーマでもあり、どなたにとっても切実な問題とな

りうだけに関心も高く、来場者との交流が密接に行われたようです。来場者から、東京消防庁の方から説明や話を聞くことができたことを喜ぶ感想を、わざわざ事務局へ伝えに来られる方もおられました。東京消防庁の方々を含め出展者も来場者も当事者であり、主役である会場状況はサイトワールドならではのものと申せましょう。

14. 広報活動

例年通り、サイトワールドのパンフレットとポスターを、共催団体を通じ、全国の視覚障害者関連の施設、団体、盲学校、点字図書館等に配布を行い、また、出展者からも関係団体、個人等への広報活動を実施しました。サイトワールドのイベント情報の事前周知を図るため、実行委員会事務局では、点字・墨字のガイドブックの事前送付を、関連団体をはじめ、昨年からの申し出のあった方々や希望者に行い、来場者の便に供しました。

サイトワールドの開催が恒例行事として、定着してきたことをうかがわせるものとして、毎年、開催案内や点字・墨字のガイドブックを事前に送るよう申しこまれる方が増えてきました。事務局では次回より、ご希望にお応えするようリストを整えています。

ホームページによる情報取得も、多くの方に利用されているようで、プリントアウトした資料を手に、会場内を案内されているガイドの方も多くおられました。

NHK ラジオ第2放送、山梨放送、JBニュース、日刊工業新聞、雑誌「視覚障害」等々にて事前情報が伝えられ、開催時には、日本テレビ(BS)、山梨放送の取材があり、ニュース等で報じられました。

15. 来場者数

会期中の来場者数 約 5,000 名

16. 警察、駅関係

これまでと同様、『サイトワールド 2011』開催に先立ち、本所警察署、錦糸町駅北口・南口交番、JR 錦糸町駅、地下鉄錦糸町駅の方々に、交通警備、案内等の特段のご配慮をお願いし、無事に開催できました。

17. 設備工事

会場の小間設置、電気配線工事は、(株)ボックス・ワン、(有)坂田電気工事に発注しました。

18. サイトワールド総括

サイトワールドは、視覚障害者の情報取得を支援する機器・製品、サービスを紹介し、意見交換等双方向での交流が特徴のイベントではありますが、東日本大震災のシンポジウムで、日盲委の震災対策本部が明らかにした、中途失明者の実態は、あまりにも衝撃的です。そうした機器の存在すら知らされず、不自由を受けいれざるを得ない状況で、ひっそり暮しておられる視覚障害者の存在は、サイトワールドに、まだまだ果たすべき役割が課題としてあることを示しています。サイトワールドより発信される情報が、視覚障害当事者だけでなく、その周りの人々、そして多くの心ある方、行政関係の方々に普く伝わり、情報格差を多少なりとも解消させる道筋となることが期待されるのです。

東京消防庁防災部防災安全課の皆さんにサイトワールドへのご協力をお願いしたとき、同庁の皆さんは、「これまで、災害時の要援護者という括りのなかでしたが、視覚障害者を対象とした場合どうするかといった検討も始めるところであり、来場者から直接話の聞ける機会を生かし、参加させていただく」とのことで、東京消防庁のコーナーが実現しました。

展示コーナーでは、災害から身を守るため日ごろから備えることや、災害時の行動のポイントなどを紹介されました。東日本大震災によって、災害は他人事でなく、だれでも被災者や犠牲者になるということを思う人は多くおられることもあり、来場者の多くが、熱心に東京消防庁の方のお話に耳を傾けていました。東京消防庁の皆さんは、ほとんどが被災

地へ派遣され、大変なご苦勞や体験をされています。災害の一线に立ち向かう皆さんのご努力に感謝と敬意を表したく存じます。

防災グッズに触ることはできないのか、ということで、東京都葛飾福祉工場のご提供により、いくつかの防災グッズの展示を行いました。一言で防災・避難用品といっても多岐にわたります。災害から、被害を防ぐ、身を守る、脱出する、助ける、避難生活の備えなど、家庭や企業・職場など状況に応じた準備が必要です。そのための資料として、同工場の防災・避難用品カタログも配布しました。

サピエ図書館の概要説明と関係出展者による利用説明会は、好評でした。特に機器やソフトの利用説明会とセットでの開催であり、また、関係出展者のブースで納得できるまで説明を聞けるということで、多くの方に、サピエ図書館への理解と認識は深まったようです。サイトワールドだからこぞできる企画ですねとの感想が、説明された皆さんに寄せられていました。

出展者と来場者の双方向の交流が活発に行われるサイトワールドは、来場者と出展者が、製品やサービス、視覚障害者をとりまく状況について、自由に意見交換を行うことが特徴で、世界でも例を見ない視覚障害者向け総合イベントとして、多くの皆さまに育てられてまいりました。「サイトワールド文化」と言い得ることと思います。

ユーザーの意見や要望に応える配慮や工夫が施され、視覚障害者にとって使いやすい機能が追加されているなど、着実な進化を遂げている例が多くみられます。そして、この文化は、視覚障害者とそれをサポートする福祉機器メーカーという枠を超え、誰にでも使いやすいモノづくりのユニバーサルデザインにつながり、バリアフリー機器の開発・普及につながっています。

今年から出展された家電メーカーから、世界初となる音声で操作する家庭用ルームエアコンが出展されましたが、視覚障害者の操作性を考慮したIHクッキングヒーターや、音声読上げ機能付きの地上デジタルテレビなども、世界初のものとして、また、ユニバーサルデザインを普及する牽引製品として、サイトワールドで紹介されてきた経過があります。

自分のペースで点字が学べる点字学習機が紹介されていました。独習でも、学習をサポートする人も使えるもので、点字教育に新たな道を開くものと言えます。従来のカテゴリーでは括れない世界初の製品の登場は、サイトワールドの魅力でもありましよう。

触る星図自動作成システムの紹介などは、教育用と考えるよりも、星空のロマンを皆で共有する試みと思います。実用性のなかに、新たな情報を得る喜びがある例とも申せます。

見えにくさを補う機器でも、新製品や携帯できる製品が紹介されていました。パソコン利用者の情報取得を容易にするシステムの紹介などを含め、今年もサイトワールドから発信された情報は、どれも大事なもののばかりであったようです。

サイトワールドは、「視覚障害者向けに配慮された商品、用具、機器などの生活・就学・就労に関わるものの出展、即ち、会場に出向けば、すべてのものに触れて、試して、納得できること」を通じて、その生活や文化の向上が図られることを、目指してきましたが、この6年の経過は、来場者や視覚障害者の要望・期待に、真摯に応える出展者の努力の軌跡を明示する6年でもあったようです。

視覚障害者が使える機器が複数のメーカーから供給されることが多くなり、「与えられるもの」から「選ぶもの」が増えることにつながっています。当事者、関係者の貴重な努力の積み重ねが、この状況を生み出だしているのです。

出展者、来場者、そしてボランティア、参加されるすべての方が主役です。『サイトワールド』の更なる発展のため、皆さまのご理解とご支援を改めてお願いいたします。

19. 第7回サイトワールドの開催について

『サイトワールド 2012』は、日本点字制定の日の平成24(2012)年11月1日(木)から3日間、会場も同じ、すみだ産業会館サンライズホールにて開催いたします。

20. 実行委員会構成

実行委員長	榑松 武 男	(KGS株式会社 代表取締役)
副実行委員長	田 中 徹 二	(社会福祉法人 日本点字図書館 理事長)
事務局 長	高 橋 実	(社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター 理事長)
実行委員	荒川 明 宏	(株式会社ラビット 代表取締役)
〃	岡 村 原 正	(株式会社ジェイ・ティー・アール 代表取締役)
〃	金 井 真 哉	(シナノケンシ株式会社 部長)
〃	諏訪部 俊彦	(株式会社サンエ芸 取締役)
〃	中山 政 義	(社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 常務理事)
〃	望 月 優	(株式会社アメディア 代表取締役)
〃	吉 田 健 二	(池野通建株式会社 部長)

(50音順)

21. 連絡先 (サイトワールド実行委員会事務局は、下記日程で移動いたします。)

平成 23 年 12 月 31 日まで

〒167-0043 東京都杉並区上荻 2-37-10 Keiビル 社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター 内
電話：03-5310-5051 FAX：03-5310-5053

平成 24 年 1 月 1 日より

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-18-2 社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 内
電話：03-5291-7885 FAX：03-5291-7886

22. 会計報告は別紙の通り

おわりに

平成 23 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で、KGS株式会社が「ディスプレイに凸凹を浮き立たせて点字を表示する点字セルの応用から、地図に絵を表現できる点図セル及び点図ディスプレイを開発し、視覚障害者向け情報機器の拡充・モバイル化を推進し、視覚障害者の日常生活の質の向上や社会参加に貢献した功績により、内閣総理大臣表彰を受けました。KGS株式会社の栄誉に心よりお祝いを申し上げたく存じます。

これまでもサイトワールドの出展企業の中で数社が、総理大臣賞、優良賞、奨励賞など受賞されています。これら各社のUD推進の地道な努力を称える表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるようにとする、私たち社会の共通した目的への貢献が認められたものでもあるのです。サイトワールドの開催は、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進の一端を担うものであることの誇りを皆さまと共有できる喜びにもつながっています。

サイトワールド実行委員会事務局は、平成 24 年 1 月 1 日より、社会福祉法人 日本盲人福祉委員会に移動いたします。関係各位の努力と配慮により、「サイトワールド 2012」より、日本盲人福祉委員会の事業として行う準備と体制が整えられたものであります。サイトワールドをこれまで育てていただいた皆さまに感謝いたします。これからも皆さまとともにサイトワールドを大事に育ててまいりたく存じます。

第 7 回の準備(2012 年 2 月よりスタート)が、新しい事務局で始まります。皆さまのご支援・ご協力を心よりお願いいたします。『サイトワールド 2011』報告書の結びといたします。

以上

テープカット



右より、君島室長、笹川会長、樽松委員長、田中副委員長

シンポジウム 東日本大震災

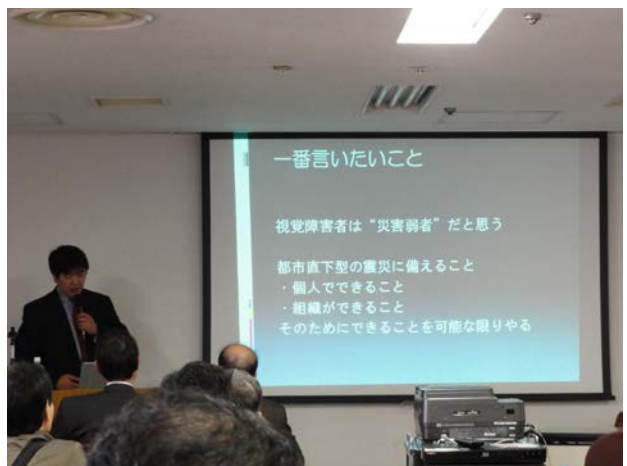


東京消防庁 江原信之副参事

会場入り口



シンポジウム 東日本大震災



日本盲導犬協会 中村 透氏

シンポジウム 東日本大震災



支援対策本部 加藤俊和事務局長

東京消防庁



東京消防庁



会場の様子



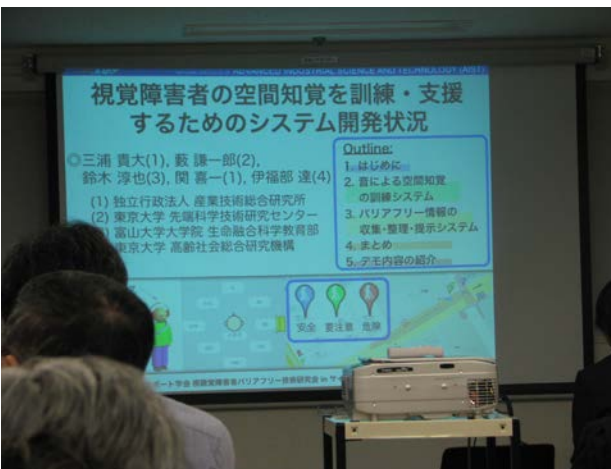
ライフサポート学会



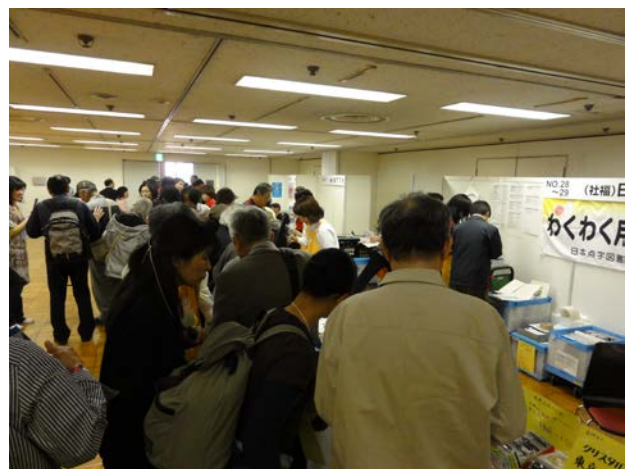
会場の様子



ライフサポート学会



会場の様子



ATM



インタビューを受ける



点図地図を触る



高校生のボランティア



会場の様子



東京スカイツリーは634mに